

【社名】 吉田家本に「フケ」とある。この社名の「フケ」の意味については、方言では深田（フカダ、フケダ）を意味する地方と、沼澤地を意味する地方があるといふ。

【傳承地】 式内布氣神社の傳承地として、湯津波村の羽黒社（白川村大字鷲山字羽黒）にもとめる『考證』『傍注』『布留屋草紙』の説、或は深溝村にもとめる『再考證』の説もあるが、兩説ともに信じるに足らない。これに對して、龜山市布氣町一六六三番地（鈴鹿郡神邊村大字布氣字日原一六六三番地）に鎮座する布氣皇館太神社を採るのは、『伊勢國風土記』『勢陽俚諺』『式社案内記』『三國地志』『背書國志』『勢陽雜記拾遺』『五鈴遺響』『神社叢錄』等の諸書である。

#### 布氣町野尻の布氣皇館太神社

【再考證】に「或説に、野尻村にフケ屋敷と云古地有といふ」とみえるが、これによつて『案内記』以下上記の諸書が野尻村皇館大明神に當ててゐる。

【位置】 この地は鈴鹿川沿いにあつて、江戸時代には東海道が龜山・野村より當村を経て關へと通じてゐた。昔は和名抄にみえる神戸郷に屬してゐたといはれる。

【由緒】 當社は現在布氣皇館太神社と稱してゐる。しか

斗を、享保元年（一七一六）に高八斗を賜はつた。それ以後、藩の援助はとりやめになり、享保八年の御造營以後は、氏子八ヶ村によりとり行はれたといふ。

明治四年七月、布氣神社・皇館太神社として村社に列格、同三十九年十二月、神饌幣帛料供進指定社となる。同四十年、布氣の能志里神社を始め、大岡寺・山下・木下・小野に鎮座する村社・無格社等を合祀し、その結果、村社皇館太神社と單稱、同四十一年六月、村社布氣皇館太神社と改稱するに至つた。

【祭神】 もと天照大御神・豐受大神・伊吹戸主神の三柱を祀つたが、明治四十年の合祀によつて、現在では二十三柱を祀る。なほ、當社は古來より祈雨のための水徳の神として崇敬が深い。○故事  
問候録

【祭祀】 例祭日は十月十五日。獅子舞は昔から著名で、丑辰未戌の閏年には、正月十四日から三月三日まで凡そ五十日間、龜山城主關氏の領分と神戸八ヶ村を巡回したといふ。現在では、正月三ヶ日のみに短縮された。氏子は昔の神戸郷にあたる野尻・落針・大岡寺・山下・木下・小野で約四百世帯。神職は、もと川村氏の世襲、一時野村の大久保氏が兼務、現在は多田利雄宮司である。

【境内地・社殿】 境内地は廣く千六百七・六七坪。元祿

し、江戸時代にあつては數多くの呼び名があつたらしく、高野大神宮・高野御前宮・高御前社・高宮・神明（社）・神戸神社・館殿宮・皇館多賀の宮・皇館大神宮等の社名がある。○龜城虎圖記・九九五集・龜府誌  
志・故事問候録・宝曆九年神社記 『故事問候録』によると、

享保八年（一七三三）に吉田家より皇館大神宮の神號を受けたとあり、以後、この社名に一定したやうである。當社は神戸郷の總社として廣く崇敬された。この神戸郷とは、野尻村・落針村・大岡寺・山下・木下・小野・鷲山の八ヶ村であるが、大祭や早魃の時には、これら郷民が參籠して雨乞ひの祈願をした。

なほ、當社には移轉説があつて、古く野村布氣林（野村の西北部・野尻村との境）にあつたが、文明年間の兵亂によつて衰退し、のち、現社地の皇館の森に移つたとも傳へてゐる。○三國地志  
神社明帳

中世には、神戸郷の神領を管した在地の豪族板淵氏（同村の西北に居住）が當社の祭祀を經營してゐた。文永元年（一二六四）に關實忠が地頭職として龜山に移住するに及んで、龜山城の氏神となり、代々の城主により御造營がなされた。近世に至つては、龜山藩より手厚い保護を受け、藩主三宅康信の時、神主屋敷分として上畑一反、高一石二

頃には百間に八十間程であつた。○龜城虎圖  
記九九五集 本殿は神明造で、間口一間、奥行一間、拜殿・社務所・參籠所・手水舎等がある。

【寶物・遺文】 表參道入口に立つ二基の石燈籠は、打田一忠の献納になるもので、「皇館太神 廣前 寛保四年甲子正月十四日」と刻銘がある。

【所見】 式内布氣神社については、布氣の地名の遺存がその手掛かりになるであらう。これについて、野尻村にフケ屋敷があつたと『再考證』にみえるが、それ以後、『案内記』『宮地記』『徵古録』『俚諺』『遺響』等は、この村の氏神皇館太明神を當てるに至つた。しかしながら、布氣に關する地名が残る場所を、野尻村とする『再考證』は誤解であつて、正しくは野村なのである。『三國地志』には「此社（布氣神社）古は野村忍山の邊にありしが、衰弊せしゆへ館との森今皇館に遷し、跡は田園とす、故に今布氣林の名のこれりと云」とみえてゐる。現社地の館との森への移轉はともかくとして、布氣林が野村忍山の近邊であつたことがこれによつて知られる。

これを更に一步すすめて、布氣林の地名を残す野村、その氏神である現在の忍山神社を以つて式内布氣神社としたのは御巫清直の『神社檢録』である。それによると、

いやうに思ふ(188項忍山神社)。

(井後政晏)

依テ其地ノ里老ニ討ルニ、野村ノ西ナル畑ノ字ヲ布氣林ト云フ、(中略) 其布氣ト字スル地ノ野村ニアルヲ以テ按ルニ、野村ノ巽位三丁許鈴鹿川ノ北涯田圃ノ中ニ白鬚明神ト稱スル祠アリ、(中略) 其社ヨリ北ノ畠井ニ街道ヲ跨リテ、猶北方ノ畠ヲモ博ク布氣林或ハ布氣カ坂ナト字ニ唱へ、又野尻村領ニ白鬚社ノ神領地アリタルニ、洪水ノ爲ニ荒蕪トナルト云傳フル地今モ川涯ニ現存ス、其地ヲ文祿三年野尻村檢地帳ニ、畑七畝歩、ふけの神殿高八斗四升、ト記載ス、サレハ布氣ト稱スル地ニ在ル社ナルヲ以テ布氣ノ神ト唱ヘタルヲ、通音ニ鬚ヒケノ神ト訛稱シ、後ニハ白字ヲサヘ加ヘテ白鬚シツヒケ明神ト呼ヒナシ、本社布氣神社タル事ヲ知ラサルニ至レリ、

と述べてゐる。前述の通り、社名のフケの意が、濕地帯を意味すると考へる時、現忍山神社の位置は、すぐ南を鈴鹿川が流れ、低濕地に臨む高臺に位置してをり、それに相應しい地であるといへよう。また、後述する式内忍山神社については、神戸の神序であるとみられる布氣皇館太神社がその遺存の社であると推察されること、或は現忍山神社の縁起・由緒は後世に多くの潤色がなされてゐること等を併はせ考へると、式内布氣神社は現忍山神社である公算が強